

Campus Magazine



Hot Topics

- あずまし寮 寮生のことば
- 保健大学のウィズコロナの取り組み
- 公衆衛生学修士課程の開設

最後にアンケートがございますので、御協力ください



看護学科 1年

高橋 周平さん



入寮したての頃、他の寮生と上手くやっていけるのかなどの不安がありました。それから約半年が経ちましたが、とても楽しみながら生活できています。僕は人と雑談や

コミュニケーションをとるのが好きなので、友達と共同生活をする寮は自分に合っており、とても楽しいと感じます。また、カーテンで仕切るなどして自分の時間を過ごすこともできるため、不自由などもなく充実した寮生活を送ることができています。夏季休暇中には寮のみんなとキャンプや旅行に行き思い出も作ることができました。今はコロナ禍ではありますが、アルコールによる手指消毒や、食事後にテーブルをアルコールシートで消毒するなどして感染予防を行っています。最初は少し不安に感じていましたが、寮生活、おすすめです。

理学療法学科 1年

木村 勇吾さん



みなさん、こんにちは。理学療法学科1年の木村勇吾です。寮生活の過ごし方についてほんの少しですが、紹介したいと思います。自分たちが住んでいるあずまし寮は大学

の敷地内にあります。そのため、通学時間はほとんどありません。講義開始10分前に出発しても全然間に合います。また、寮は2人部屋で男子は定員が16人しかいないため、とてもアットホームな雰囲気です。生活できます。コロナ禍でなかなか人との交流も難しいと思いますが、寮生活なら共同生活なので、いつでも交流できます。原則として、1年生しか入れませんが、気になる方はぜひあずまし寮への入寮をご検討下さい！寮生一同お待ちしております。

社会福祉学科 1年

近江 美咲さん



寮生活は、一人暮らしと同じように自分で家事を行わなければならないため、学業との両立が大変な時もありますが、それでも他の寮生と共同生活をする中で悩みを相談

できたり、ふざけ合ったりするなど毎日がとても充実していると感じています。寮には出身地や学科の異なる人たちが集まって生活しているので、いろいろな人と仲良くなることができてとても楽しいです。コロナ禍の中での寮生活で気を付けていることとしては、部屋の換気や手洗いうがいをこまめにすることを心掛けています。寮の友人と夜遅くにコンビニでアイスを食べたり、休みの日に外食をするなど家族のような関係でいられることが寮生活の醍醐味です。

栄養学科 1年

高木 李子さん



こんにちは！栄養学科1年の高木李子です。私は、あずまし寮の4階で様々な学生と一緒に生活をしています。学生寮では、全学科の1年生と、2年生のレジデントアシ

スタントの方々が共同生活をしています。なので、帰ったら人がいるということが嬉しくて、さみしさを感じないところも良いところの一つです。また、色々な人と話すことができ、とても楽しいです。先輩とも交流することが出来るので、学校生活を送る上でとても心強いです。コロナ禍なので、自分が使ったところの消毒をしたり、共同スペースに人がたくさんいる時にはできるだけ距離を開けるなど、自分なりに工夫して生活しています。早くコロナ禍が収まり、寮生活が今よりも賑やかな生活の場になることを願っています。



寮長 理学療法学科 2年

鈴木 律杜さん



私は普段の寮生活を1年生の寮生と他愛もない話をし、時には先輩として勉強面のアドバイスをするなどして楽しく過ごしています。一人暮らしと寮生活の違いの1つとしては平日と土曜日の朝に点呼と共有スペースの掃除があります。朝7時に起きなくてはならないので規則正しい生活リズムを整える秘訣にもなっています。また、今年度も昨年度同様に新型コロナウイルスの影響があるため、より一層掃除や消毒、ソーシャルディスタンスに注意を払って生活しています。私は寮生活の1番の魅力は「他学科との交流」だと感じます。私は学科によって価値観やものの見方の違うことに気づかされると同時に、自分の視野が広がっていくことを感じられました。これは将来、チームで仕事をする際に必ず役立つと思います。これは寮生活でないと味わえない楽しさであると私は感じます。

大学祭

大学祭実行委員長 理学療法学科3年 三上 陸さん



今年の大学祭は、青森県での新型コロナウイルスの感染者の増加によって開催が中止となりました。夏休みから本格的に準備を進めていただけに悔しい思いが強かったです。しかし、SNSを活用することで例年通りにはできなくとも何かできないかと模索し、抽選会をオンラインで配信しながら行うことを決定し、運営することにしました。初の試みのためどうなるか不安なこともありましたが景品が当選した方、配信を見ていただいた方が楽しめるような運営を行うことができたのではないかと思います。協力してくださった多くの皆様、本当にありがとうございました。

学生の表彰

社会福祉学科1年 伊藤 楓夏さん

9月21日(火) 本学において、養護老人ホーム安生園から社会福祉学科1年伊藤楓夏さんへの感謝状贈呈がありました。

伊藤さんは、7月31日に東青森駅線路内に立ち入った安生園利用者を保護し、安生園に連絡をしました。

安生園小笠原園長から感謝状と御礼の品を手渡された伊藤さんは「このような場を設けて頂きかえって恐縮しています。利用者が無事でよかったです。」と話していました。



OPEN CAMPUS

8月9日（月）に「オープンキャンパス 2021」を開催しました！



看護学科
シミュレータでの看護体験の様子



理学療法学科 スロープを活用し、車いす介
助で階段を降りる方法を説明している様子



社会福祉学科
相談・懇談コーナーの様子



栄養学科 大量調理室見学の様子

オープンキャンパスは、保健大学への入学を目指す皆様に、ホームページや大学案内では伝えきれない教育や研究などを体験的に理解していただくため、毎年開催しています。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため事前申込制での開催となりましたが、定員を上回る多くのお申込みをいただきました。また、オンラインで雰囲気体験できるよう、オープンキャンパスの様子をライブ配信しました。

1日の開催を3部に分けて参加人数を制限し、検温や各ブースの入場制限など感染症対策を徹底した上での開催でしたが、専門職の魅力や大学生活について、在学生や教員の話に熱心に耳を傾ける参加者の姿が見られ、盛況なオープンキャンパスとなりました。

保護者等（後援会）懇談会



今年度、本学後援会では、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、会員である在学生の保護者等の皆様を対象に例年開催しておりました懇談会について、10月9日（土）にWeb上の開催とすることとし、32名の保護者等の皆様にご参加いただきました。

最初の全体会では、太田後援会会長からあいさつがあり、続いて学長から、新型コロナウイルス感染症対策についての基本方針と対応が述べられました。引き続き学生部長から授業の実際や実習等への取り組み及び就職支援状況、学生への感染予防、経済的支援制度等について説明させていただきました。

次の学科別プログラムでは、学科の特色を踏まえた教育内容、学生生活及び就職に関する支援の状況等について、各学科の担当教員から説明をいたしました。

懇談会終了後は、個別相談が行われ、Web上または電

話により、それぞれの学科の担当教員が4学科合わせて19名の保護者の方々から個別にご相談をお受けしました。

ご参加いただいた皆様との対話を通じて、今回の懇談会が保護者の皆様と本学との相互理解を深め、本学の今後の教育研究活動と学生支援のあり方について共に考える貴重な場となりましたことを深く感謝申し上げます。



全体会の様子
左側が太田後援会会長、
中央が上泉学長、右側が鳴井学生部長

講 義



本学では新型コロナウイルス感染症対策として、講義室前での手指消毒の徹底や定期的な教室の換気、密を避けるため広い講義室での授業等に努めるほか、状況に応じて遠隔授業を行っています。

また、体調不良や緊急事態宣言区域へ移動した学生は出席停止とし、その期間中に実施した授業等の学習保障を行っています。

臨地実習に制限はありますが、感染対策を徹底し、これまでは基本的に対面授業を継続して行っています。

学 生 支 援

本学では、「新型コロナウイルス感染症対策学生支援窓口」を設置し、学生からの生活等の相談を総合的に受け付けています。

また、大学独自の支援として、JAグループ青森及び日本学生支援機構の一部支援を受け、407名の学生にお米と3,000円相当の食料を配付しました。

さらに、令和2年度より、大学寄附金を財源に、経済状況書類審査不要・無利子無担保で10万円が借りら

れる「緊急支援一時金」の貸付けや、学外実習において新たに負担が生じた宿泊料等に対し1泊5,000円を上限とした助成も行っています。緊急支援一時金は計15名、学外実習宿泊料等助成は計54名がこれまでに支援を受けました（令和3年10月末現在実績）。



食料支援の様子

就 職 支 援

Web面接やWeb説明会など、オンラインによる就職活動を支援するため、通信機器や照明器具などを備えた部屋を設け、安心して就職活動が出来るように環境を整えています。コロナ禍における就職活動の変化とポストコロナを見据えた支援を継続していきます。



通信機器と照明器具、身だしなみを整えるための鏡等を設置しています。

食 堂

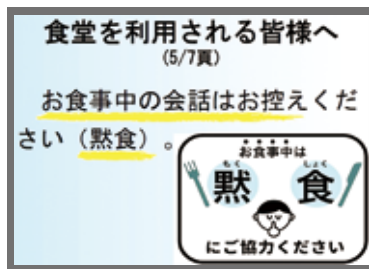
食堂では、学生の皆さんが安心・安全に食事が取れるよう手指消毒液の設置を含め、様々な感染防止対策を実施しています。今回はその一部をご紹介します。



カウンターにビニールカーテンを設置、ソーシャルディスタンスを保つ導線シートを設置



テーブルにパーティション（飛沫防止用）を設置



電子掲示板による注意喚起（黙食等）

ウィズコロナ時代の大学院でのキャリアアップ

～未来を見つめる研究者と高度専門職業人をめざす人のために～

コロナ禍という今日、本学大学院ではオンライン形式を中心に授業や研究を進め、大学院生の修学の機会が途切れないように努めています。さて、先を見通せない時代だからこそ、今、「さらなる専門知識と研究力を身につけたい」とお考えの皆さまに本学の大学院をご紹介します。

1 多職種との連携や専門分野を超えた学際的研究を身につけたい

「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の3つの研究領域を設け、自分自身の研究テーマを持ちつつ、多職種との連携をより意識した学びを深め、健康課題を的確に解決できる能力を養成します。

また、令和5年度より公衆衛生学を基盤とした「公衆衛生学修士（MPH: Master of Public Health）」の学

位を取得できるコースを開設する予定です。このコースでは地域において公衆衛生の指導的、実践的な役割を果たすことができる人材育成をめざしています。

2 「がん看護専門看護師」の資格を取り、スキルアップしたい

県内で唯一のがん看護のスペシャリストの養成コースを開設しています。このコースでは、がん医療に関わる高度な実践能力を養います。

3 社会人なので、働きながら学べる環境で学びたい

自分のペースでじっくりと研究できるように、また働きながら学べるように、オンラインを活用して、移動の時間や費用等の便宜を図るだけではなく、高度で豊富な修学の機会を提供します。

研究室のご紹介

大学院の研究室では、どんな研究活動が行われているのでしょうか。一部をご紹介します。

保健・医療・福祉政策システム領域／国際地域栄養研究室 准教授 三好 美紀

当研究室では、地域の健康・栄養課題とその解決に向けた支援に関する調査研究および栄養転換期にある途上国支援に関する研究を行っています。現在4名（博士前期3名、博士後期1名）の大学院生が、それぞれのフィールドで研究テーマに取り組んでいます。例えば、博士前期課程2年の学生はこれまでの青森県内の行政、教育機関、健診施設での現場経験をふまえて県内市町村における産後の体重管理に関する研究を行っており、博士後期課程の学生はNPO法人ISAPHがラオスで実施しているプロジェクトに関連付けて、そして、博士前期課程1年の2名はそれぞれグアテマラ、マラウイにおける青年海外協力隊（JICA 海外協力隊）栄養士隊員としての経験をふまえて研究計画の検討を進めています。国内外を問わず地域住民の未来の「健康」「食」につながる支援を探求していきます。



ラオスにおける食事調査の一コマ

対人ケアマネジメント領域／小児看護学研究室 准教授 谷川 涼子

当研究室は開設2年目の新しい研究室です。子どもの成長発達と生活環境を理解し、子どもと家族の健康増進に必要な諸理論を学び、時代の変化に応じた看護学を探究しています。在籍している2名は、社会人であり仕事と両立しながら勉強しています。それぞれの看護実践を通して課題や目的をもっており、文献抄読など調べた内容を発表しディスカッションをすることで、自分の研究が深まるようにしています。現在、子どもの「心の発達」を理解し、地域での子育てサークルに参加するなどさまざまな講義や演習から幅広い視点を養っている所です。大学院生と教員が自由にそして深く考え、意見を交え楽しい有意義な時間になるようにしています。少しでも地域の子どもや家族が健やかに過ごせるような研究を進めるために切磋琢磨しています。



文献検討した内容を発表している様子（発表時はマスク着用しています）

基礎研究・実用技術領域／生体機能学研究室 教授 李 相潤

運動が生体に与えるポジティブな影響は大きく、健康維持や向上には欠かせない重要な因子であることは広く知られています。しかし運動の特性によって生じる活性酸素の生成やケガなど生体に及ぼすネガティブな影響についてはあまり知られていません。

本研究室では運動の特性（種類、強度、頻度）が活性酸素の動態や骨形態及び骨代謝、筋組織（組織の変化、筋 type の分染など）に及ぼす影響を研究しています。また、女性における身体活動の強度や特性が骨密度に及ぼす影響について研究し、骨の予防医学に求められる健康指標の作成を行っています。



運動の特性と生体反応を調べるための実験の様子



お知らせ

大学院担当教員の「研究室」紹介については、
大学院の二次元コードをご覧ください ⇒



青森県立保健大学 大学院博士前期課程に
令和5（2023）年度から

「公衆衛生学修士（MPH）コース」

が開設されます（予定）

青森県では公衆衛生の人材の不足が大きな課題となっております。

昨今のコロナ禍をはじめとする感染症等の健康危機管理、地域住民の健康寿命の延伸や生活の質の向上など公衆衛生上の問題が山積しており、短期的にも中長期的にも人材の育成を図っていく必要があります。本学も学部教育・大学院教育を通じて、地域の公衆衛生活動の中核を担う人材育成をこれまで進めて参りましたが、公衆衛生の人材育成が望まれる現状に鑑み、県立大学としての社会的な役割を一層果たすべく、「公衆衛生学修士（MPH：Master of Public Health）コース」の開設準備を進めているところです。

MPHコースでは、次のようなことを学ぶことができます。

- MPH コア5 領域（疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、環境産業保健学、社会行動科学）に基づき、基礎的な公衆衛生学をベースにさまざまな分野の専門知識を多角的に学修できます。
- 豊かな自然に育まれた青森県を丸ごとフィールドとして、「地域の健康課題」と向き合いながら研究を進めていき、具体的な解決に向けた提言を行う力を身につけることができます。

本コースでは、専門職はもちろん、さまざまな分野の方々にも広く門戸を開き、「青森」という特徴ある地域性を実践的なモデルとして教育と研究を進めることで、汎用的に公衆衛生全般に資する人材育成を目指します。

保護者の皆様におかれましては、本コースに関心をお寄せいただき、お子様との語らいの中で、話題としていただけますと幸いです。

本学ホームページ内「大学院」コーナーにおいて、関連情報を随時更新していきますので、ぜひチェックしてください。



就職活動支援

キャリア開発センターでは、変化する採用動向を的確にとらえ、経験豊富なスタッフが、学生の皆さんの就職活動を全力で支援しています。

年13回実施する就職活動セミナーでは、「自己分析」、「応募書類の書き方」、「面接対策」等、実際の就職活動で役立つ内容をタイムリーに取り上げています。また、学科毎に行う就職ガイダンスでは、本学の卒業生を講師にお招きし、現在の仕事や職場のこと、就職活動や国家試験対策などの体験談を聞くことができ、毎回、好評のイベントとなっています。ガイダンス終了後は、卒業生が在学生の個別相談に応じています。この他にも公務員試験対策学内講座や個別相談等、学科や職種に応じたきめ細やかな支援を行っています。



国家試験対策 (看護学科)

看護学科では、看護師・保健師・助産師の国家試験対策を学生主体で行っており、国家試験対策担当教員は国家試験対策講座や模擬試験の開催をサポートしています。また、学生が不安や悩みを抱えている時、気軽に相談できる体制（相談できる場所・時間の確保など）を組み、国家試験対策講座の開催や模擬試験の受講状況や成績を

確認し、必要に応じてゼミ担当教員が個別に対応しています。その他、図書館などの学習室の開設、国家試験対策に必要な情報誌やポスターなどを掲示し、学生が主体的に学習できる環境を整えています。

昨年度は国家試験対策講座を5日、模擬試験5回実施し、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため国家試験対策講座はオンラインで開催しました。国家試験対策の学生委員と教員の連携や学生個々人の努力により、国家試験合格率は全国平均より高い水準を保っております。



オンラインで講座を受けている様子



カウントダウンポスター

アンケート



広報誌「活彩! 保健大学だより」を読んでいただき、ありがとうございます。
今後、広報誌をより良いものとするためにアンケートを実施させていただきます。
以下のURL又は二次元コードにアクセスし、ご回答をお願いいたします。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

URL : <https://forms.office.com/r/RpsVimef0R>



発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>